



山いき隊員だより (栗島隊員)



地域の森林を生かすために

水窪町は森林が96%を占める森林地帯です。かつてはその森林資源を活かした林業が盛んに行われました。水窪地域を取り囲む森林は豊かな緑で見る人の目を楽しませてくれますが、森林を利用した産業にはなかなか光が当たらず、資源として森林を活用することが難しい状況が長らく続いています。戦後、長い時間をかけて先人たちが育ててきた森林を有効に活用することができれば、それは地域の魅力となり、何より森林所有者や林業関係者のやりがいにもつながっていくと思います。

そこで、森林・林業をより身近に感じていただくために、自分の立場で出来ることをいくつか挙げてみました。もし共感していただけるようなものがあれば、今後も積極的に実践していきたいと思っておりますので、ご感想・ご提案等いただくと幸いです。

<林業の現状や森林に関わる仕事の魅力を正しく伝える>

林業の魅力・楽しさ・大切さはもちろん、厳しさや危険性も含めたありのままの林業を発信します。森林組合、国有林の森林官、農林事務所、林業事業者、森林所有者、製材業者、NPO法人など森林・林業・木材産業の分野に関わる方々はたくさんいます。そういった地域内外の関係者から話を伺って、それぞれの森林との関わり方をわかりやすくまとめることができたなら、森林に関わる仕事への間口がより広がるのではないかな、と考えています。



林業の仕事の様子 (水窪町森林組合提供)

<地域の林業の歴史・先人の歩みを語り継ぐ>

かつて水窪の山の中には国有林のための事業所があり、たくさんの方が林業の仕事に関わっていました。山から木材を搬出するため、森林鉄道も敷かれていました。

現在は伐採の音がいたるところで鳴り響いたり、木材が大量に搬出される様子を見たりすることはないですが、林業が盛んに行われていた時代があったことに一種のロマンを感じます。こういった地域の林業の歴史も大事に語り継いでいきたいと考えています。



昭和初期の木材搬出の様子 (天龍木材株式会社所蔵)

<山と触れ合う楽しさを子供たちへ>

現代の子供の遊びは、安全性が重視されるあまり、山や自然からは遠ざかっているように見えます。山での遊びは確かに危険なこともあります。何が危険であるかを学ぶことも生きていく上では重要だと思います。何より水窪で生まれて山で遊ぶ楽しさを知らずに育ってしまうのは少しもったいないように感じます。

地域の魅力をリアルに感じてもらうためには、子供たちが山と触れ合える場を増やしていくことも大切なのではないかと考えています。



<森林資源の様々な活用方法を提案>

山には木材として使われるスギやヒノキのほかにも、日常生活で使える有用な樹木がたくさん生育しています。料理に使われるサンショウの実やコシアブラの芽、農林業器具の柄として良く使われるカシの木、神事でお供えされるサカキなど挙げればキリがありません。そういった「一般にはあまり認識されていないけれど、見つけると嬉しい樹木」の認知度を高め、活用を図っていくことが、地域の方々の山への興味を駆り立てるきっかけの一つになるのではないかと考えています。

サンショウの実



今後も森林の魅力・山の暮らしを身を持って体験し、伝えていきます

これまでにNPO法人山に生きる会や森林組合の方々と関わらせていただく中で、地域の森林のことや林業の現状について多くのことを学びました。今後も、森林・林業に関わる方々と連携をさせていただきつつ、学ばせていただいたことを少しずつお返ししていけるよう、活動してまいりますので、引き続きよろしく願いいたします。



<里に降りる獣たち～ニホンザル編～>

6月末に大里の商店街通りからほど近い場所でサルの群れが出没したそうです。ピワの実を食べるために山から降りてきたのだと思われます。サルは頭が良く様々な農作物に被害を及ぼすため、農作物を育てている人にとってはとても厄介な相手です。

人に直接危害を加えることは滅多にないですが、群れで行動するため近くで遭遇したときには威圧感があります。木をゆらして人間を威嚇することも多く、山の斜面が揺れて見えることもしばしばです。今回はニホンザルによる農作物等への被害の特徴、有効と言われている対策などを紹介します。



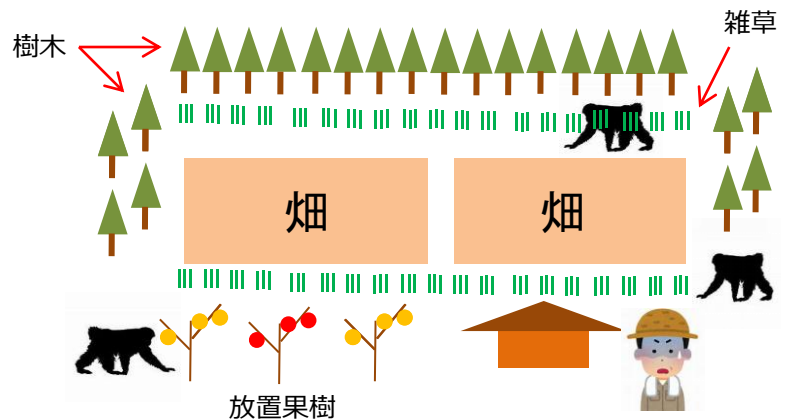
<ニホンザルによる被害の形態>

- ・根菜類を地上部に近い部分で折って食べる
- ・スイカやカボチャは農地の外に持ち出すこともある
- ・天竜区ではシイタケ食害の情報も多い
- ・人なれ、集落・農地への依存度が高まると、人の生活域への侵入や威嚇行為などの被害が発生するおそれがある



<サルが降りてくる集落の特徴>

- ① 集落にサルを引き寄せる食べ物がある
 - 果実・野菜の放置、放棄果樹がある
 - 山で少ないエサを探すより里で探す方が楽
→農作物の味を覚えたサルが増加
- ② 集落が安心して出沒できる場所になっている
 - 過疎化・高齢化が進行 ■ 狩猟者が減少
→人なれしたサルが増加
- ③ 集落・農地の周りに山林が接近
→いつでも集落に出沒しやすい環境



対策

★農地近くの雑草木を除去

…樹木の伐採、雑草の刈払いによって隠れる場所をなくす

★採らない果樹は伐採 ★放置果実・野菜をなくす

…エサになるものをできる限り減らす

★侵入防護柵を設置

…電気柵を設置
柵周辺の樹木は伐採

★その都度追い払う

…サルが出没したら、すぐにロケット花火等で追い払う

※ 家畜の放牧やモンキー犬（訓練した犬）の活用も効果があると言われている

色々対策を挙げてみましたが、地域によって出来ることと出来ないことがあると思います。上で挙げたような対策方法を元に、今後、地域に合ったやり方を考えていく必要があります。すでに猟友会による有害鳥獣捕獲だけでは対策しきれない段階に来ていると思いますので、「サルを見かけたら追い払う」「野菜や果実を放置しない」など、まずは動ける人が簡単なことから実践していくことが重要になってくると考えています。

